

報告書名：8020 支援情報ネットワークシステムの開発に関する研究

- 歯科分野における情報化意識実態分析とシステム化構想 -

研究者名：山本 勝1)、加藤直彦2)、藤本明伸2)、中島俊朗2)、永井昌寛3)、横山淳一1)

所属：1)名古屋工業大学工学部、2)愛知県歯科医師会、3)愛知県立大学情報科学部

8020 運動のあるべき姿は、すべての住民が生涯を通じて「口腔ケア」に対する正しい知識と行動力を持って、かかりつけ歯科医および歯科衛生士等との連携協力のもとに継続実践していくことである。そして、このためには、住民一人ひとりのライフステージに応じたきめ細かな口腔ケア・サービスを計画的かつ効率的に提供していくことが必要となってくるであろう。とくに、これからの21世紀の高度情報社会（IT社会）において、かかりつけ歯科医を中心として地域関係者が連携して必要な口腔ケア・サービスをタイムリに提供していくためには、住民一人ひとりの生涯を通じた口腔ケアに関する各種データの収集・蓄積・管理・加工・提供が不可欠な条件となってくるであろう。

そこで、本研究においては、上記の目的を達成するための8020運動を情報管理面から総合支援していくための「8020 支援情報ネットワークシステム」の開発とその効果的な運営管理方法について調査研究を行った。とくに、初年度の平成14年度においては、1)「8020 支援情報ネットワークシステム」を構築していく上で不可欠な歯科医師並びに歯科医師会におけるの情報化（IT化）意識実態に関する調査分析、2)「8020 支援情報ネットワークシステム」の基本構想、の2点を中心に分析並びに考察を行った。

1)愛知県歯科医師会員を調査対象（有効回収数：1,973件）として情報化に関する歯科医師の意識実態調査分析を行った。会員のパソコン保有率は8割、パソコン利用頻度は年齢が上がるにつれて低くなる等、年齢による情報化意識および利用状況に差異がみられた。また、情報化（IT化）の目的は、「サービス内容の充実」「運営の効率化」が上位に挙げられている。その他、インターネットおよび歯科医師会イントラネット等の利用実態と課題並びに問題点が明らかにされた。また、全国の47都道府県歯科医師会を調査対象（45都道府県歯科医師会および日本歯科医師会から回答）として、都道府県歯科医師会および同事務局における情報化実態および今後の情報化推進計画等に関する調査分析を行った。都道府県歯科医師会事務局におけるパソコンの保有台数並びに利用状況、事務業務の電子化状況、インターネット環境の整備状況、8020 支援情報ネットワークシステムの必要性等について調査分析を行った。また、このような8020 支援情報ネットワークシステムの導入については、「現在運用中」および「開発中」を合わせると4件（9%）、「検討中」12件（28%）とまだ低いことが分かった。

2)Webを利用した「8020 支援情報ネットワークシステム」の基本構想並びに基本設計について考察を行った。とくに、(1)本システム導入目的並びに基本方針の明確化、(2)本システムの果たすべき機能（役割）の設定、(3)本システムの全体構成と構成要素間の相互関係、(4)本システムにおける情報の種類とその流れ、(5)本システムの開発と運営における検討課題（テクノロジー・アセスメント）等について考察を行った。

次年度は、本年度のシステム化構想にもとづいて具体的に8020 支援情報ネットワークシステムの開発とモデル実験並びにその評価を実施していく計画である。